

祭司の学者エズラ、

そして多くのエズラ(神の言葉に精通した者たち)の必要

聖書：エズラ 7:6, 11-12, 21. 8:21-23. ネヘミヤ 8:1-9, 11-13. 12:26

- I. エズラは祭司であり、学者でもありました。ですから、彼は文字の学者ではなく、祭司の学者でした——エズラ 7:6, 11-12, 21. ネヘミヤ 8:1-2, 8-9, 11-12. 12:26 :
- A. 祭司は、主とミングリングされ、主で浸透されている人です。エズラはこのような人でした——エズラ 8:21-23。
 - B. エズラは、神に信頼する人であり、神と一である人であり、神の言葉に精通している人であり、神の心、神の渴望、神のエコノミーを知っている人でした——7:6, 11-12, 21。
 - C. エズラは祭司の学者として、絶えず主と接触することによって主と一でした——ネヘミヤ 8:1-2, 8-9, 11-12. 12:26。
 - D. エズラは新しいことを何も語りませんでした。彼が語ったことは、モーセがすでに語っていました——エズラ 7:6. ネヘミヤ 8:14. II ペテロ 1:12。
 - E. 祭司たちとレビ人は、学者エズラの所に集まって来ました。それは、律法の言葉をより深く知るためでした。ネヘミヤ記第 8 章 13 節で、「より深く知る」とは、内在的な意義を理解することを指しています。
- II. エズラは天的な真理でイスラエルの民を教育することによって、彼らを再構成しました。それは、イスラエルが神の証しとなることのできるためでした——ネヘミヤ 8:1-3, 5-6, 8, 13-18 :
- A. イスラエルに対する神の意図は、地上で神聖に構成された民を持ち、神の証し、すなわち、神の言葉で再構成された民とすることでした——イザヤ 49:6. 60:1-3. コロサイ 3:16。
 - B. 捕囚から帰還した後、イスラエルの民は依然として手に負えませんでした。なぜなら、彼らはバビロンで生まれ育ち、彼らの構成においてバビロン人になっていたからです：
 - 1. バビロンの要素が彼らの中へと造り込まれ、彼らの存在の中へと構成し込まれていました——ゼカリヤ 3:3-5。
 - 2. 彼らは父祖の地に帰還してイスラエルの国の市民となった後、神の言葉で再構成される必要がありました——ネヘミヤ 8:1-3, 5-6, 8, 13。
 - C. 神の民を教え、再構成して、神にしたがった文化、神を表現する文化へともたらず必要がありました。このような種類の文化は多くの教育を必要とします——ネヘミヤ 8:8。

- D. エズラは神の民を再構成するために、とても有用でした。なぜなら彼は、天的で神聖な構成と文化の総合計を備えており、彼を通して、民は神の言葉で再構成されることができたからです——1-2 節。
- E. エズラは民を神の御言に戻し、彼らが神聖な御言の中の天的な真理で再教育され、再構成されるようにしました。
- F. 神の民を再構成するためには、神の口から出て来て、神を表現する言葉をもって、彼らを教育する必要がありました——詩 119:2, 9, 105, 130, 140:
1. 神の民を再構成するとは、彼らを神の言葉の中へと入れ、言葉で浸透させることによって、教育することです——コロサイ 3:16。
 2. 神の言葉がわたしたちの内側で働くとき、神の霊、すなわち神ご自身は、言葉を通して、自然に神の性質と神の要素をわたしたちの存在の中へと分与します。このようにして、わたしたちは再構成されます——II テモテ 3:16-17。
- G. エズラの務めを通して、イスラエル(予表において)は再構成された結果、特別な国、すなわち神へと聖別され分離されて、神を表現する国となりました——イザヤ 49:6, 60:1-3, ゼカリヤ 4:2:
1. 捕囚から帰還した人は、個人的にも団体的にも再構成されて、神の証しとなりました。
 2. 彼らは神の思想、神の考慮、神であるすべてを注入されました。これは彼らを神の複製としました。
 3. このような神聖な構成によって、すべての者が命と性質において神となりました。その結果、彼らは神聖な国となり、神聖な特性を表現しました——I ペテロ 2:9。
- III. 主の回復の中で、わたしたちは多くのエズラを必要とします。彼らは祭司として教える者であり、神と接触し、神で浸透され、神と一であり、神とミングリングされ、神で満たされ、神の御言に精通している人です。このような人が資格づけられて、回復の中で教える者となります——マタイ 13:52, II コリント 3:5-6, I テモテ 2:7, II テモテ 1:11:
- A. 主イエスが人々を教えたのは、彼らをサタンの暗やみから、神聖な光の中へともたらすためでした——マルコ 6:6, 参照、使徒 26:18:
1. 人が罪の中へと墮落したことは、神との交わりを壊し、すべての人を無知にして神を認識しないようにしました。そのような無知は、暗やみと死をもたらしました——エペソ 4:17-18。

2. 主は世の光であり、大いなる光として来て、死の影の中に座っている民の上に輝きました——ヨハネ 8:12. マタイ 4:12-16。
 3. 主の教えは光の言葉を解き放ち、暗やみと死の中にいる者が命の光を受けられるようにしました——ヨハネ 1:4。
- B. 教えは啓示と等しく、啓示はおおいを開くことです—— I テモテ 2:7. エペソ 3:3-4, 9:
1. 教えることは、おおいを取り去ることで、わたしたちは人を教えるとき、おおいを取り除いて、彼らが三一の神の何かを見ることができるようになるべきです。
 2. わたしたちが召会の集会で何かを語っているとき、わたしたちの語ることは、おおいを取り去ることであるべきです。これは、わたしたちの教えることが、啓示を提示すべきであることを意味します—— I テモテ 4:6。
 3. 今日の多くのエズラは労苦して、真理をもって神の民を教育することによって、彼らを構成するべきです。それは、彼らが地上で神の証し、すなわち神の団体的な表現となるためです——ネヘミヤ 8:1-8, 13. II テモテ 2:2, 15. I テモテ 3:15。
- C. 回復には最高の真理があります。その真理は、過去の数世紀にわたって回復された真理の究極的完成です—— I テモテ 2:4. II テモテ 2:2, 15:
1. 満たされなければならない最大の必要は、主の回復にいる聖徒たちを真理の中へともたらして、回復を前進させることです—— I テモテ 2:4. II テモテ 2:2, 15。
 2. わたしたちは、聖書における客観的な真理と主観的な真理の両方を持っています——ルカ 24:39. I コリント 15:45 後半. ローマ 8:34, 10. コロサイ 3:1, 1:27。
 3. わたしたちは聖書の研究において、単に「枝」に注意を払うべきではなく、「根」と「幹」の中へと深く入り込むべきです。
 4. わたしたちは、神のエコノミーとキリストのからだとの各段階の、結晶化された意義を見る必要があります——ヨハネ 1:14. I コリント 15:45 後半. エペソ 1:22-23. 4:4-6。
- D. 真理で構成されることは、真理がわたしたちの中へと造り込まれて、わたしたちの内在的な存在、すなわちわたしたちの有機的な構成となることです——II ヨハネ 2 節:
1. 神聖な啓示の内在的な要素は、わたしたちの存在の中へと造り込まれ、

構成し込まなければなりません——コロサイ 3:16。

2. いったん真理がわたしたちの理解を通してわたしたちの中へと入り込むなら、わたしたちの記憶の中にとどまります。そしてわたしたちは真理を記憶の中にとどめ、それはわたしたちに真理の蓄積を持たせませす——
I ペテロ 1:13. II ペテロ 1:15. 3:1。
 3. 真理はわたしたちの記憶の中へと入り込んだ後、常時の長期的な養いとなります。そしてわたしたちは真理の蓄積を持ち、常時の養いの下にいます——コロサイ 3:16, 4. I テモテ 4:6。
- E. 主の回復にいるすべての聖徒は、神聖な啓示において訓練されるべきです——II テモテ 2:2, 15:
1. 聖書におけるほとんどすべての極めて重要な啓示は、二一兄弟とリー兄弟の務めの中で扱われてきました。わたしたちはこれらの純粹で健康な事柄に注意を払うべきであり、「毒うり」を集めることに時間を浪費すべきではありません——列王下 4:38-41。
 2. わたしたちはみな、ライフスタディと、回復訳とフットノートを通して助けを受け、聖書の言葉の内在的な意義を見る必要があります——ネヘミヤ 8:8, 13。